

# 笹賀地区文化祭特別企画 開催♪

10月31日(日)に開催予定だった「笹賀地区文化祭」は、コロナ禍が続く中で昨年度に引き続き中止となりましたが、今年度は二子小学校と菅野小学校中学校の協力で、例年ステージ発表していた合唱や吹奏楽の演奏を上映するコーナーを設けるなど、特別企画展を25日(月)から1週間にわたり開催しました。31日は選挙と重なったこともあり、多くの方々が足を止めて観ていました。



20年ぶりに掘り起こされた菅野小学校タイムカプセル

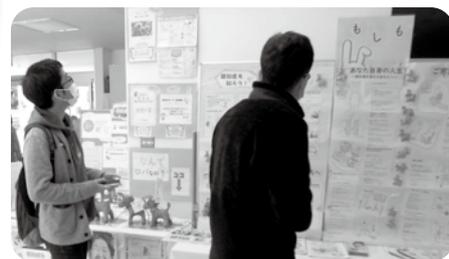


選挙啓発ポスター展示



小中学校合唱・合奏上映コーナー

笹賀の世帯数・人口
世帯数 4,565 世帯
人口 10,640 人
男 5,352 人
女 5,288 人
(令和3.11.1 現在)



「認知症を知ろう」パネル展示

## 学んでおきたい 認知症

文化祭展示の一角に、松本市南西部地域包括支援センターの「認知症を知ろう」という、啓発のパネル展示がされました。

基本的な知識から、自分自身や家族が「もしかして？」と気が付くきっかけや心構えなどが紹介されています。

また、認知症の本人が自分たちから情報を発信する、厚労省より任命された「希望大使」5人の紹介があります。長野県からも春原治子さん(上田市)が任命され、認知症は怖くない、と発信しています。



オレンジのロバ隊長

展示の中でひとときわ目を引くのがオレンジ色のロバのぬいぐるみ。「認知症サポーターキャラバン」のマスコットです。これは全国でサポーターを100万人養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指しています。しかし朝

一夕で実現するものではありません。キャラバン(隊商)のロバがゆつくりゆつくり一歩ずつ進むように、あわてず焦らず着実にというイメージと、認知症施策「オレンジプラン」から、オレンジのロバになりました。展示されたぬいぐるみやアクセサリは笹賀地区の有志の皆さんの手作りです。

### 役立つ情報

市から「認知症思いやりパスブック」「高齢者福祉と介護保険のしおり」、警察と連携した「思いやりあんしんカルテ」、笹賀地区からは総合情報「笹賀くらしの知っとく情報 ほほえみ」などの冊子が発行されています。令和2年度には、本人・家族たちが集い語り合う「松本ミーティング」も立ち上がり、広く情報交換ができる環境が作られ始めています。

説明をしてくれた包括支援センターの奥原明子さんと林みどりさんは「何か気になることがあったら、いつでも気兼ねなく包括支援センターに相談してくださいね」と話していました。今後も機会があることにパネルを展示する予定だそうです。



往来インタビュー

二子小学校長

大和正秀さん

令和3年4月、二子小学校に  
着任した大和正秀校長に学校の  
印象をお伺いしました。



「まず最初に感じたのは、人懐っこいこと」「すぐ挨拶する。何て名前？何処から来たの？と、気さく過ぎるくらい矢継ぎ早に質問が飛んでくる」「子どもは、人と人との関わり合いの中で育つ。家庭や学校だけに任せてしまうのではなく、地域あつての子ども」「前任の安曇校では、上高地の学習がクラスづくりの中心で、大正池の景観を守るために何をすれば良いか、いつも活動していた」  
二子小学校は、総合的な学

クラブ学習の時間が始まりました

習の時間などで地域との交流は生まれているが、地域活動が弱いと感じている」「触れ合いの中で、自分の故郷に共感を持ち、誇りを持つてほしい」と熱く語り、これからの二子小学校の地域交流を模索していました。

二子小学校のクラブ見学をさせていただきました。10のクラブがあり、そのうち6つで地域のみなさんが先生として指導してくださっています。どの先生方も子どもたちの心をつかむのがお上手で、私も思わず引き込まれてしまいました。



▲ビーズ手芸クラブ



▲卓球クラブ



▲陶芸クラブ

スポーツ大会結果

【笹賀地区親睦グラウンドゴルフ大会】  
9月12日(日)に感染症対策を行いながら規模縮小のうえ開催予定でしたが、直前で感染警戒レベルが上がったため、中止の判断となりました。

【第64回市民体育大会】

10月10日(日)に市民体育大会が開催されました。笹賀地区からは、卓球、ゲートボール、マレットゴルフの3種目に参加し、卓球笹賀代表チームは、敗者復活戦トーナメントで優勝しました。



【第38回市長杯争奪球技大会】

10月31日(日)に、選挙日程と重なる中でしたが市長杯争奪球技大会が開催されました。笹賀地区からは、卓球、ゲートボール、マレットゴルフの3種目に参加し、マレットゴルフ笹賀代表チームが優勝しました。



さんぽみち

昨年、駒ヶ根市立博物館で、陸軍登戸研究所の企画展を見た。戦時中上伊那地方へ疎開し薬物の研究などをしていて、天竜川の河原で爆弾の実験もしたとのこと。

研究所の資料は戦後徹底的に廃棄・隠蔽され、地元にもほとんど残っていないが、30数年前に地元の高校生が調査を始めたのをきっかけに、地区の人たちの協力や、「高校生になら話をしよう」と、今まで口をつぐんでいた研究所関係者からの聞き取りなどで内容が明らかになってきたという。中継では松川村に疎開し、電波の研究等をしていたが、やはり現在ほとんど資料が残っていないようだ。

松代大本営を守るための地理的条件などから疎開先を選んだらしく、本気で本土決戦を考えていた当時の状況を想像した。その場合、この松本も悲惨なことになっていたかもしれない。

菅野小にも戦跡がある。平和な暮らしを続けるためにも、このような戦跡や、当時の記録などを残していかなければならないと強く感じる。



▲菅野小学校  
北西の角にたたずむ